

★6月号の特集は『水あそび・プール楽しく安全に』(19頁～)

- ◆「読者のみなさんに聞きました」と実践(前橋市・松江市・横浜市)では、年齢ごとに楽しい水あそびを紹介され、大切にしていること、安全面で気をつけていること、悩みを報告されています。
- ◆レポート「保育園・家庭での水の事故をふせぐために」(39頁)は、5月号のお昼寝に続いて、寺町東子さん(弁護士・保育士)が、「不慮の事故」の約半数が水の事故、水が10センチあれば子どもは溺れる」と、保育施設の水回り・プール・川・海での安全対策について具体的にアドバイスされています。大事なものは、このレポートをもとに、園の全職員で検証し、紙きれのマニュアルに終わるのでなく、「訓練は本番のごとく、本番は訓練のように」をこころがけ、チームとしてハードもソフトも対策を万全にすることが大切です。皆で読みあい考えあいましょう。

★**子どもの中モテはどこにある?**(58頁～) 池添 素さんの連載 27。**ゲームとのつきあい方その2** ゲームとのつきあい方を通じて、子どもが自分をコントロールする力をつけていくことの大切さや、そこに大人がどう関わるのかなど考えさせられます。7月号のその3で幼児期のゲームのつきあい方、ゲームを買わない主義などに続きます。池添さんは「子育てをやり直すチャンスかも!？」と。

★**きょうも、ぽっかいスイートで**(68頁～)平松 知子さんの連載 111。 **沖縄の保育** 沖縄では「基地問題」に加えて、公的保育の不備を認可外保育所が補っているということ。貧困層や家庭環境の困難さが認められる家庭の多くは、認可外保育所を利用しています。それは、点数制では、パートや正規職ではない保護者は、認可の入所から漏れてしまうからということです。公的保育の不備を補う形で大規模な無認可もあり、300人を超える無認可園が認可を取ったら、面積基準から120人定員になったそうです。つまり、詰め込み保育されていたということです。

★**少～し力をぬいて**(70頁～)雨宮 処凜さんの連載 27。**3.11から8年の日、思ったこと** 原発事故の犠牲となった人々の苦しみは現在進行形、原子力緊急事態宣言は発令中ですが、多くの人があることを忘れていて。避難者バッシングも。メディアの報道が減っていることも原発事故の風化に拍車をかけている。原発事故は当然福島だけの問題ではない。私たち全員が当事者と、雨宮さん。

⇒今、保育・幼児教育の「無償化」を実施するとして、子ども・子育て支援法に認可外保育所など今まで公的保育の外にあったものを盛り込もうとしています。私たちは保育園の当事者として、待機児問題の解消のために、認可外保育所を活用しよ

うとしていることにノー!!、子どもの生命すら危ない認可外保育所でなく、入所を望むすべての子どもたちが認可保育所に入れるように、認可保育所を増やすこと、あわせて保育者の処遇改善を実現することをより大きな世論としていく必要があると、平松さんと雨宮さんの連載から思いました。94頁の保育制度・政策も必読。

★私の保育実践ノート (74頁～)連載 315。 **楽しい食事が心と体を豊かに育む～ゼロ歳からの楽しい食体験～** (横浜市あおぞら保育園) 「食べることは、単に栄養をとったり空腹を満たすだけではなく、心の栄養にもなると感じています。そして、大好きなおとなや友だちと楽しく食に触れることで、興味関心は広がります。味覚が育つ乳幼児期だからこそ、五感を使いながら、さまざまな食材に触れたり味わうなかで、食を豊かにし、好きなものを増やしていきたいと思います」と、家庭、地元生産者と保育園が密に連携した実践です。

★保育、こんなとき どうする? どう考える (88頁～)清水玲子さんの連載 15。 **保育園の行事 どう考える?** 園や地域で受け継がれてきた行事は、保育園生活の一つの節目。その日を楽しみにし、行事の準備し、当日を楽しむということの特別な非日常性がまた楽しいものです。しかし、行事の準備や練習のために子どもたちが思いっきりあそびべないことや、作品の評価や運動会の種目ができたかできないかは、保育者・子ども・保護者それぞれが気になるところです。『ちいさいなかま』本年2月号の特集(楽しい行事にしたい!)での熊本市・さくらんぼ保育園の実践では「保護者ともいっしょに、本気で子どもたちにとってどうなのかを議論したことがとても貴重だと感じました」と。そして、「子どもたちとどんな行事にしたいかを考えながらいっしょに作っていくことが大切なのではないでしょうか」と。

『ちいさいなかま』の紙面づくりにご参加ください

～読者モニター大募集～

通信活動を中心に、編集や企画づくりに参加する「読者モニター」を大募集します。毎月1回の通信活動とアンケートにご協力ください。モニター期間終了後、通信状況に応じて薄謝(1回800円)を進呈します。

応募方法は、ハガキ、FAX、Eメールで、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、保護者の場合は子どもの年齢、保育者の場合は何歳児クラス担当課をご記入の上、『ちいさいなかま』編集部宛にお送りください。詳細は、『ちいさいなかま』の表紙の裏に記載しています。〆切は、6月10日です。

〒162-0837 東京都新宿区納戸町26-3『ちいさいなかま』編集部モニター係

TEL 03-6265-3172 FAX 03-6265-3230

E-mail : udg79423@nifty.com